

♪宗次ホールコンサートがもっと面白くなる読み物♪

新たな名曲に出会う、ランチタイムコンサート!

5月1日(日)「スペインのギター音楽(番外編) ~セルドニオ・ロメロ没後20年~」 11:30開演

「ランチタイム名曲コンサート」は11:30からの1時間、気軽にクラシックの生演奏に親しんでいただくということで、オープン直後から開催し続けている大人気の公演です。オープン当初は月間2~3回だったコンサートも、今や15~20回。近隣の飲食店との「セットプラン」のバラエティーも増え、多くのお客様にご利用いただいております。さて、この「ランチタイム名曲コンサート」の特徴は、多くの方がご存知の名曲を中心に、選曲されていることですが、何を名曲とするかは様々ですよね? 名曲とは後世に語り継がれる優れた楽曲であることが大前提ですが、「このメロディー心地良い」「なんとなくこの曲好き!」など基準は千差万別。ギターの名曲といえば「アランプラの思い出」「禁じられた遊び」が挙げられますが、他には…?

5月1日に出演する大嶋芳さんはクラシックギターの魅力や本場スペインのギター音楽を伝えていらっしますが、今回は正統派スペイン・ギターの伝統を語り継ぐ「ロメロ一家」という存在を通してクラシックギターの「知られざる名曲」をご紹介します。今は知らなくてもきっとこのコンサートを聴けば今日から貴方の名曲に加わるはず! もちろんコンサートの最後にはあの名曲『アランプラの思い出』の演奏も予定されていますよ。

今回はその大嶋さんに、コンサートを前に予習として「ロメロ一家とは?」というお話を中心にインタビューしました。
(宗次ホール 朝生花子)



大嶋 芳(ギター)

破綻を知らない間違
な技巧と輝かしい音色
を誇り、正統派スペ
イン・ギターの伝統を
受け継ぐ「スペイン・ギ
ターの王族」ロメロ・
ファミリーの父親セル
ドニオ、長男セリン、
次男ペペの各氏に師事
しロメロ・テクニック
を直々に学ぶ。米国に
て10余年に及ぶ研鑽
を積み、日本国内では
唯一のロメロ技法継承
者として至高のロメ
ロ・テクニックを披露
している。

製作家として活躍する、孫ペペ・ジュニアの作る楽器を現在
は主に使用し、入門以来ロメロ一家とは三世に亘り直接関
わりを持ち一族以外では演奏される事の無いセルドニオ・ロ
メロ作の楽曲も得意とする。加えて大学時代にはLewis
Peterman博士率いる古楽アンサンブルにてルネサンス~初
期バロック時代の音楽を専門的に学び、特に16世紀スペイン
宮廷音楽への造詣を深めた。

2005年「愛知万博」ではスペイン館に常駐し会場を沸か
せた他、国連バビリオンでの特別演奏にも招待された。また
来日音楽家による公開レッスン・講習会等の通訳としても活
躍している。米国、カリフォルニア州立サン・ディエゴ大学
音楽学部演奏科卒業。

== == == == == == == == == == == == == == == == ==

Q:いつごろからギターを始めたのですか?

A:小学校低学年のころです。

Q:中学校や高校の授業にギターがあるのはわかりますが、
小学生しかも低学年とは早いんですね。始めたきっかけは
なんですか?

A:恐らく親戚が引っ越すか何かで貰ってあったのか、たま
たま家にギターが転がっていました。

それが偶然にも俗に言うクラシックギターだったのです。

Q:大嶋さんの思うクラシックギターの魅力はどのようなもの
ですか?

A:昔はテレビのドラマ、時代劇でさえもコマーシャルでナイロ
ン弦のギターが使われていたりして(ウエスタン調と呼ば
れたりしていた)、音色自体は耳に馴染みがありました。

操作に関しては、両手で直接触れて音を出す。また、
心臓近辺で楽器を抱えるため弦や楽器本体の振動を指
先だけでなく身体で感じるすることができます。演奏す
る立場では、極める難しさやその過程が自分の気質に合
っていることに気付いてきました。



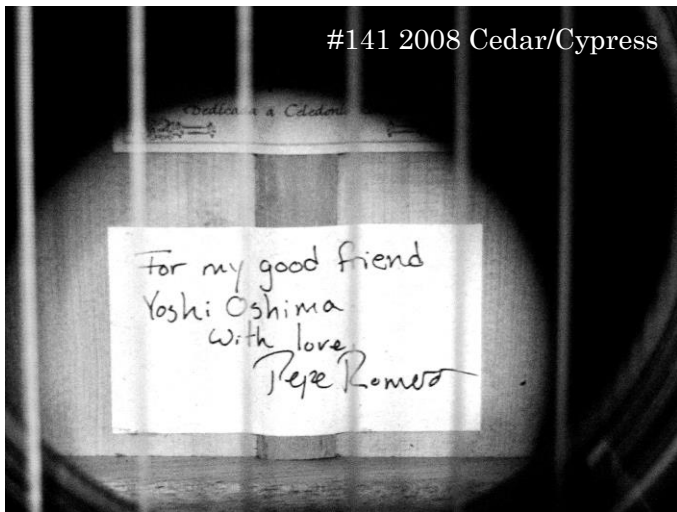
▲ペペ・ジュニアが作ったギター

Q:ロメロ一家との出会いは?

A:全ては偶然の連続ですね。まだクラシックギターを詳しく
知らない頃に誰とも知らず何かロメロ一家のカセットテ
ープを持っていました。今考えても、どうやって手に入れ
たかも判らないもの。更には進学で渡米した際に同じ街に
ロメロ一家も住んで居るということを知りました。

それまでは音符は読めたり弾けたりしましたが、正式な
クラシックギターの教育は全く受けていなかったため、ロメ
ロ一家の凄さもまだ解っていませんでした。それが現地で

演奏会を観て度肝を抜かれました。クラシックギターの生音というのがどういうものであるのかを初めて知った気がしました。それから録音物などを蒐集し始め、今では「国内随一のコレクター」を自称しています。



▲ペペ・ジュニアが大嶋さんのために製作したギター。ギターの内側には大嶋さんへのメッセージが。

Q: 運命ともいえる「偶然」が重なってできた出会いですね。ちなみにロメロー家はクラシックギター界でどのような存在ですか？

A: 日本では若い世代には知られておりませんが、クラシックギターに興味を持つ中高年なら名前くらいは聞いたことがあるのではないのでしょうか。作曲界でのバッハ一族とは異なりますが、ギターに携わるという点でDNAは代々受け継がれているよう。身近で接していて「血は水よりも濃い」というのをまざまざと見せつけられてきました。三世代目となるペペの息子、ペペ・ジュニアはギター製作家として海外では既に高い評価を受け、現在を代表する名工です。ピアニストで言うなら、デ・ラローチャ、アシュケナージ、アンドレ・ワッツ等々と、演奏家として同じ次元に存在すると言えるはず。私個人にとってロメロー家は永遠の存在でしょうか。

Q: ロメロー家の伝統・あるいはテクニックとは、ずばりどういった特徴をもつのでしょうか？

A: 楽器本来の生の音色、その音色の粒・輝き・遠達性など。これまで何度かランチタイムコンサートの中でも話してきましたが、ホールではステージから離れたところで聴いた方がクラシックギターの生音は美しいということです。実は「ロメロ・テクニック」とは特別なことではなく、クラシックギターという楽器の持つ能力を最大かつ効果的に発揮させること。要するに「当たり前のことを当たり前にする」という、あらゆることに通じる考え方と言えます。

クラシックギターはきちんと鳴らせば、想像以上に強く輝かしい音が出るし、例えばオーケストラとの協奏曲独奏や弦楽などと室内楽を演奏する時もマイク無しで十分通用します。それがロメロー家の演奏を初めて生で観たときに受けた衝撃でした。

Q: 最後に今回のコンサートについて、聴きどころやお客様にメッセージをお願いします。

A: 今回は時代を追った今までの一連のシリーズではなく「番外編」となっておりますが、私のレパートリーの中でも最も重要で得意とする曲目ばかりでプログラムを構成しています。ロメロー家の創始者セレドニオ・ロメロ氏の没後20年ということで、作曲家でもあった師の偉業を讃え、亡くなる直前まで本人から直接指導を受け、師の息子さんたちからも習得した思い出の曲をお届けします。



▲ロメロ邸にてペペ・ジュニアとともに:2001年

ここ数年回を重ねるごとにファンが増え、今回もスケジュール発表前に「いつ公演がありますか？」と問い合わせをいただくほど、着々と「知られざる名曲」を名曲にしてきた大嶋さん。国内でもそう演奏機会の多くないこのロメロー家の美しい音色や旋律・テクニックを後世に語り継いでいるギタリストがなんと東海出身。しかも1,000円とお得に聴ける今回のような機会は多くありません。また当日の使用楽器はペペ・ジュニア氏製作のギターと大変貴重。この機会に是非お聴き逃しのないように。お待ちしております！

ランチタイム コンサートVol.1377

スペインのギター音楽 (番外編)
 ~セレドニオ・ロメロ 没後20年~
大嶋 芳 (おおしま よし/ギター)

5月1日(日) 11:30開演 (11:00開場)
 一般: 1,000円 【自由席】

==== プログラム =====
 アンダルシア舞曲 第1番
 ロス・マエストロス タンゴ・アンヘリータ
 前奏曲“ロマンティコ” グアサ(舞曲) 他

ご予約は宗次ホールチケットセンターへ
☎052-265-1718(毎日10:00~18:00)

